第 9 号　2019 年 11 月

Swan Link

安来市在宅医療支援センター
〒692-0206
島根県安来市伯太町安田 1700 番地
ＴＥＬ　0854-37-9337
ＦＡＸ　0854-37-1448

すがすがしい秋晴れの今日この頃、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋…。
皆様はどんな秋をお過ごしですか。
朝晩の空気は冷たくなってまいりましたので、風邪などひかれませんように、ご自愛下さい。

今月号の内容

〇在宅医療介護連携意見交換会開催
〇第 2 回公開セミナー開催

在宅医療介護連携意見交換会

8 月 30 日(金)**第 3 回在宅医療介護連携意見交換会**を開催しました。当日は医師と介護支援専門員を中心に、市内病院地域連携室や行政などから約 60 名の方にご参加いただきました。

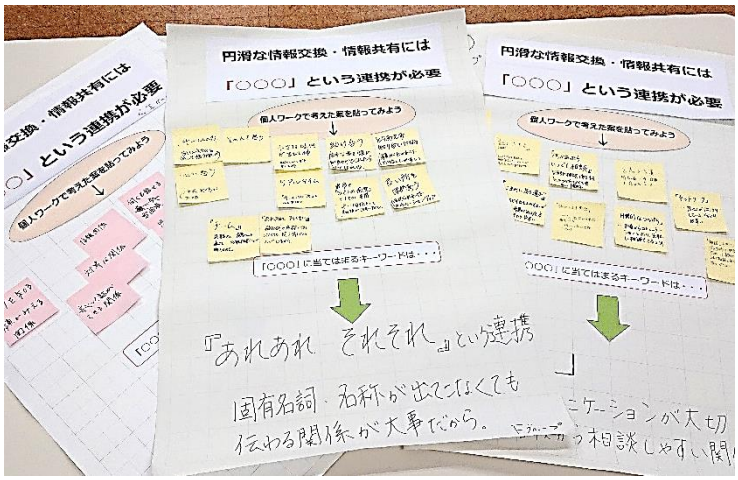
今回は**「訪問看護の視点から考える在宅療養」**と題し、訪問看護ステーションのぎ 管理者 大江範江氏より、ご講演をいただきました。

「あんしんをとどける訪問看護」をテーマに、訪問看護の歴史から実際の訪問看護の様子や医療保険での訪問看護について、在宅療養と病院での療養の違いなど幅広い内容のお話をおうかがいすることができました。

参加者からは、訪問看護師さんが在宅で頑張ってくださっている様子を詳しく知ることができて良かった、残存機能を活かしながら暮らす在宅でのケアの大切さ大変さが学べた、訪問看護について基礎からのお話でわかりやすかったなどの感想を頂きました。

講演後には、**『円滑な情報交換・情報共有には〇〇〇という連携が必要』**をテーマにグループワークを行いました。

その中では、普段からのコミュニケーションが大切、信頼関係の構築が重要、タイムリーな情報共有のためのツールが必要、多職種間の相互理解が必要など、様々な意見が交わされました。



グループワークについて、テーマ以外の内容も含めて他職種と気軽に話しができた良い機会だった、他職種を理解することにつながった、このグループワークを通して顔の見える関係性が構築できた、日頃感じていた事を共感し合えた、様々な視点からの意見が聞けて連携について改めて考えることができた、多職種で話すことで改善できることが見えて良かったなどの感想が寄せられました。

緊張の中で始まったグループワークでしたが、意見を出し合うなかで他職種間の理解や共感を得られたことが、今後のより良い利用者・患者支援へ繋がっていくと感じました。

第 2 回　公開セミナー

10 月 19 日（土）第 2 回公開セミナー

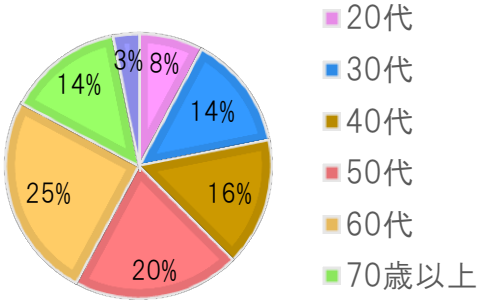
『災害対策から進める地域包括ケアシステムの構築～明日に備える 未来につなぐ～』

を開催しました。

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるためには、「住み慣れた地域を自分たちで守る」ことが必要です。日本各地で毎年のように大規模災害が発生している昨今、災害時にそれぞれが担う役割を考え、備えるきっかけづくりとして企画しました。

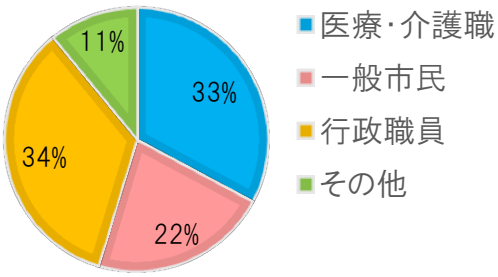
昨年度末に新しく完成した安来市防災研修棟を会場とし、92 名の方がご参加くださいました。

《参加者年代》



n:64

《参加者職業》



n:62

安来市防災研修棟

第 1 部では、**平成 30 年 7 月**の**西日本豪雨**で被害にみまわれた**岡山県総社市**より、総社市役所保健福祉部長寿介護課 課長 林直方氏、同課 地域ケア推進係 主査 野瀬明子氏をお迎えし、「豪雨災害から得たもの」として、ご講演をいただきました。実際の被害状況の説明では、当時メディアであまり取り上げられませんでしたが、冠水被害に加えてアルミ工場爆発被害を受けた地区のお話など、貴重な体験談をお話くださいました。また、被災前の普段から取り組んでいた夜間や雨の日の避難訓練、被災直後より行なった、支援物資フリーマーケットやペット避難所など総社市独自の取組みはとても参考になる内容でした。

第 2 部では、防災啓発ドキュメンタリー映画**『いつか君の花明かりには』**を観賞しました。この映画の監督である、小川光一氏がご来場くださり、ご講演をいただきました。「支援や心配をするだけして、何もせずに次の被災者になる」という悲しい連鎖を私たちは繰り返していて、それを止めたかった（HP より抜粋）と、防災の必要性をお話くださいました。

愛着ある町、親しい友人、大好きな家族。大切なものを守るために、防災はしたくなる。

～参加者アンケート～

○日頃の我々の活動とはレベルが違い過ぎて、どのように周知すればよいのか、他人事ではないということをどう伝えるのか、再度考える良い機会となった。（一般市民・その他）　○身近なところから考えていくことで、まちづくりに繋がっているのだなと思いました。（医療・介護職員）　○防災は特別なことではなく、家族、地域、福祉、生活、命、人権を考える上で、大切なキーワードである。（行政職員）　○地域の方と日頃からのコミュニケーションが大事だとわかりました。（一般市民・その他）　○子供のうちから日常的に身につけていく事が大切であると思った。一緒になって考えることが必要であると思いました。（医療・介護職員）